

シンポジウム開催にあたって

2011年3月11日の地震・津波、そしてその結果生じた福島第一原子力発電所の事故は、自然の破壊力と現代文明の弱さを私たちに再認識させています。原子炉の炉心溶融や水素爆発を防げなかったこと、そして放射性物質を放出し、地域社会を破壊してしまったことは、その核エネルギー利用のための設計技術、保全技術、安全規制、緊急事態対応のいずれにおいても不完全であることを示してしまいました。こうした科学技術を私たち人間が持つ意味は何でしょうか。今、技術や制度についての徹底的な見直しが始まっています。原子力利用から不可避免的に発生する放射能は、生物の遺伝子を傷つける可能性があります。しかし生物が低線量放射線から受ける影響については、確かなことがまだわかっていません。原子力は人間にとって新しい科学技術であり、その有効利用においては、今生きている人間が責任を負える時間を超えて、50年から100年を単位とする長期間にわたりその効果を見極め続けねばなりません。現代社会は放射線によるリスクとつきあいながら、核エネルギーの持つ可能性を富の創出につなげることが出来るのでしょうか？ 将来への着実なビジョンの創出が求められています。このシンポジウムでは、日本とフランスの研究者がそれぞれの立場から、生命に及ぼす放射能の影響と、そうした科学技術を人間が使う条件について論じます。

プログラム	
14:30 ~ 14:35	開会の挨拶 日仏共同博士課程 日本コンソーシアム代表(代理) 明治大学副学長(国際交流担当) 勝 悦子
14:35 ~ 15:00	講演「FUKUSHIMAの教訓:データの信頼性と社会」 東京大学大学院教授 新領域創成科学研究科 岩田 修一 氏
15:00 ~ 15:25	講演「福島以降の原子力」 アレヴァ社顧問 Bertrand BARRÉ 氏(ベルトラン・パレ氏)
15:25 ~ 15:50	講演「被曝による人間の健康に対する放射線の潜在的影響」 IRSN(フランス放射線防護原子力安全研究所) 研究員 Jean-René JOURDAIN 氏(ジャン・ルネ・ジュールダン氏)
15:50 ~ 16:15	講演「低線量率放射線の生物影響」 財団法人 環境科学技術研究所理事長 嶋 昭紘 氏
16:15 ~ 16:35	休憩
16:35 ~ 18:45	パネルディスカッション 「放射能と向きあう人間社会 フクシマ後の展望と課題」 ●コーディネータ: 明治大学法学部専任准教授 勝田 忠広 氏 ●パネリスト: 東京大学大学院教授 岩田 修一 氏 アレヴァ社顧問 Bertrand BARRÉ 氏 IRSN(フランス放射線防護原子力安全研究所) 研究員 Jean-René JOURDAIN 氏 財団法人 環境科学技術研究所理事長 嶋 昭紘 氏
18:45 ~ 18:50	閉会の挨拶



■ 申込み方法

シンポジウム参加に事前登録は必要ありません。
直接会場にお越しください。当日は先着順に受付をいたします。
※日本語・フランス語の同時通訳がございます。



- 会場 パリ日本文化会館1階 小ホール (Maison de la culture du Japon à Paris)
住所:101bis quai Branly 75740 Paris Cedex15 FRANCE
- アクセス ・地下鉄6号線 Bir-Hakeim 駅より徒歩2分
・R.E.R 高速郊外地下鉄C線 Champ de Mars 駅より徒歩3分
- 注意事項 ・やむを得ない事情により、講演者・パネリストの変更、開催の変更・中止をすることがあります。

パネリスト紹介 (講演順)

岩田 修一

東京大学大学院教授



専門分野はデータ科学と設計科学。

核燃料、合金、材料、人工物そして環境と対象を拡大しながら設計プロセスの体系化への挑戦を続け、物質・材料の設計についてはデータベース駆動型の設計システムを提示した。一方、人工物から環境にいたる人間系の特性を陽に反映しなければならない難しい課題の解決については科学技術データのオープンアクセスの実現とデータ科学を基軸にした集合知の活用による新たな問題解決案を提案したが、現在は福島第一原子力発電所の事故を防げなかったことの反省を出発点にして今後の核エネルギーと人間との関係、在り方について考え続けている。

Bertrand BARRÉ

アレヴァ社顧問



フランス原子力・再生可能エネルギー庁(CEA)原子炉部長、コジェマ社(COGEA、現在はAreva-NC社)の研究開発部長、欧州原子力共同体(EURATOM)共同研究所にてフランス理事を務めるなど、原子力分野における数多くの要職を歴任。CEA退官後の現在は、世界最大の原子力産業複合企業であるアレヴァ社顧問であり、国立原子科学技術学院(INSTN)名誉教授。
ベルトラン・パレ氏 公式HP: www.bertrandbarre.com

Jean-René JOURDAIN

IRSN(フランス放射線防護原子力安全研究所) 研究員



フランス放射線防護原子力安全研究所(IRSN)の放射線防護・健康部門の副部門長であり、主に低線量放射線の健康への影響、被曝者治療、原子力事故対策などについて研究活動を行っている。現在は、国連科学委員会(UNSCEAR)が主催するワーキンググループの座長として、福島第一原子力発電所で働く労働者の、被曝量測定と健康評価活動に従事。

嶋 昭紘

財団法人 環境科学技術研究所 理事長



専門分野は放射線生物学。

東大教授在職中には、放射線による生殖細胞突然変異高感度検出系をメダカを用いて開発し、線量対効果関係を、ガンマ線の低線量率・高線量率照射、鉄イオン(重粒子)照射に関して研究し、生殖細胞突然変異率に関するDDR/F及びRBEを実験的に決定した。最近では、低線量率・低線量放射線による生物影響に関する研究を総括している。

勝田 忠広

明治大学法学部専任准教授(工学博士)



専門分野は原子力政策(使用済核燃料管理)。

余剰の分離プルトニウムや再処理工場操業の遅れに伴う原子力政策の問題を回避するための「サイト内乾式貯蔵」の可能性について研究中。また福島原子力発電事故に関して、原子力安全・保安院「東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故の技術的知見に関する意見聴取会」有識者として参加。

問い合わせ先 日仏共同博士課程

日本コンソーシアム事務局 明治大学 国際連携部 国際連携事務室内

TEL: 03-3296-4591 E-mail: office@cdfj.jp

